

令和7年度 男女共同参画セミナー

「LGBTQを裏側から考える」 ～性の多様性と日本社会～

群馬大学准教授の高井ゆと里さんを講師に迎え、男女共同参画セミナーが開催されました。今も続く社会構造が市民生活にどのような結果をもたらしてきたのか、セミナーの様子をお届けします。（6月28日前橋プラザ元気21にて開催）



高井さんの願い「多様性の裏にある背景に敏感になってほしい」

「皆さんは子どもの頃、体育の授業は好きでしたか？」という問いかけで始まった講演会。とある調査によると中学、高校と進学するにつれて体育が嫌いになる人が増える傾向が見えてきました。それだけではなく、男子と女子では数字に約2倍の開きがあることもわかります。好き嫌いの個人差は確かにある。しかし、集団で見ると『ただの個人差とは言えない何かがある』。その「何か」を考えることが、講演全体の一貫したテーマでした。

マイノリティが排除されてしまう構造的な背景

政治の世界や会社で出世をするのは、大抵が男性です。女性は、圧倒的に少ない。理由のひとつには、責任のある仕事は女性に任せられないという偏見が根強いことが挙げられます。女性は、子育てや介護などを経験しがちです。職場を離れざるを得なくなると、男性の働き方や考え方、男性にとって安全な空間が出来上がってしまうのです。男性的な働き方がスタンダードになってしまっている場所は、女性にとってはとても働きにくい環境です。会社の偉い人が男性ばかりになると、セクハラやパワハラなどの女性視点が考慮されにくくなり、その場所がおかしい場所だと気がつけなくなってしまいます。



また、スタンダードな意識は学校・職場・社会とさまざまな場所で醸成されてしまうので、「排除のループ」を断ち切ることを難しくしています。多様性を重んじるというのは誰を基準にしているのか、基準が偏っていたのではないかと反省することでもあるのです。

LGBTQ：世の中の「性の当たり前」から追い出されてきた人たち

私たちの何気ない一言も社会構造に影響を与えます。

「男の子なんだから」「女の子なんだから」と言い聞かされて育った子どもたちは、性のスタンダードが無意識のうちに刷り込まれてしまうのです。政治の世界や会社などでは、女性の排除が起こっていました。構造のレベルで前提とされてこなかった人をここではマイノリティと呼んでいるので、LGBTQは、世の中の「性の当たり前」から追い出されてきた人たちということになります。



同性を好きになる子どもやトランスジェンダーの子どもは、メンタルヘルスに深刻な課題を抱える人がとても多いです。特に10代では、安心して暮らせる場所がなくなってしまうことも。学校と家が生活のほぼ全てなのに、存在の否定やいじめなどで両方が潰れてしまったら本当に困ってしまいます。

LGBTQ当事者は、最も少なく見積もっても約30人に1人は居ると言われています。前橋市の人口に換算すると、33万人のうち、1万数千人はLGBTQ当事者が居ると考えられます。このリアリティを皆さんは感じられているでしょうか？

放っておいたら、排除のループは止まりません。マイノリティに目を向けることは大切ですが、それと同時に世の中のスタンダードを問い返す必要があります。

高井ゆと里氏 プロフィール 群馬大学准教授。倫理学者。共著に『トランスジェンダー入門』『トランスジェンダーQ&A』、編著『トランスジェンダーと性別変更』、訳書にショーン・フェイ『トランスジェンダー問題』がある。

《セミナーに参加して》物事の背景を知るところから始まる講演会はとても興味深いものでした。切り口が斬新で、多くの学びがありました。(記事：石井)

9月1日は防災の日

避難は様々な状況を想定しよう

避難場所は避難所だけではなく、車中や自宅になることもあります。ライフラインが止まってしまうことも考えられます。どんな状況でも慌てずに行動できるよう、備えておきましょう。

防災備蓄を始めよう

飲料水・食料品・非常用トイレセット・日用品のほか、こどもや介護用のオムツ・女性の生理用品・ペット用品など多くの備蓄品が必要になります。まずは、「我が家に本当に必要な物」を選びましょう。一度にそろえるのが難しい場合は、家族で相談して優先順位をつけ、少しずつ準備していきましょう。

私の家は川沿いにあり、ハザードマップでは3~5mの浸水が想定されています。そのため、ライフジャケット（救命胴衣）も

人数分備えています。家族から「心配しすぎ」と笑われますが、安心こそがなにより大切です。いざという時に身の安全を第一に考えられるように、できることから備えを始めませんか。

備蓄品の最適な収納場所

発災時でも安全に取り出せる場所に収納することが大切です。

- 非常用持出リュックは玄関近くに
- 水は複数の場所に分けて保管
- 浸水対策として食料は高い場所や2階に
- トイレ用凝固剤、消臭ゴミ袋はトイレに

減災のための片付け

避難の妨げにならないよう、廊下や玄関に置かれている不要品は片付けましょう。

(記事：整理収納アドバイザー 山口)



子育て支援 合同企業説明会

子育て中の方を対象に合同企業説明会を開催します。仕事と子育ての両立に理解のある市内企業が約10社参加します。保育所や、職業訓練についての相談コーナーも設置。託児もあります。(要予約)

日時：**10/16** (木) 10時~12時

会場：ジョブセンターまえばし

対象：再就職を目指す子育て中の方

託児：参加申込み時にご予約ください
(0歳から未就学児)

お申込
問合せ

☎027-256-9321

